

滑川町こども計画

あふれる笑顔を育てよう
子どもの未来をつくるまち

—こども・子育てファースト滑川—
計画期間 令和8年度～令和11年度

なぜ今、「こども計画」が必要なのでしょうか？



滑川町の人口は、15歳以上の年齢区分で増加し続けていますが、15歳未満のこどもは減少しています。持続可能なまちづくりには、こどもや若者が、今もこれからもこの町に住みたいと思える環境を地域全体で育むことが必要です。だからこそ、こどもや若者の包括的な「滑川町こども計画」が必要なのです。

国の動き



令和5年4月に「こども基本法」が施行。子どもの権利を主体として尊重し、その最善の利益を第一に考える新しい理念が掲げられました。



本町の計画

「こども基本法」の精神を礎とし、こどもや若者、子育て当事者の声に耳を傾け、具体的な施策へと結びつけます。

めざすのは「こどもまんなか社会」。 滑川町の未来をつくる4つの柱。



すべてのこども・若者が
ウェルビーイングを
実感できるまち



すべての親が子育てに
喜びや楽しさを感じ、
安心できるまち

基本理念

あふれる笑顔を育てよう 子どもの未来をつくるまち

すべてのこども、若者、そして子育て家庭を応援します。
子どもがのびのびと育ち、誰もが幸せを追求できる
ウェルビーイング (Well-being) が実感できる
まちづくりを進めます。



すべてのこども・若者が
夢や希望を持ち
成長できるまち



こども・若者のそだちを
地域の力で支えるまち

ウェルビーイング (well-being) : well (よい) と being (状態) からなる言葉です。こども大綱では、全てのこども・若者が、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態 (ウェルビーイング) で生活を送ることができる社会を「こどもまんなか社会」と位置付け、その実現を目指しています。

将来像①すべてのこども・若者がウェルビーイングを実感できるまち

こどもたちの声

7割以上

「家や学校のほかに、ここにいたい・ほっとできる居場所がほしい」と答えたこどもは7割以上。

自分の意見を大人に伝えたいこどもは、小学生で54.5%、中学生で37.7%。

「アンケート」や「直接会う」といった方法が望まれています。

私たちの行動



こどもの居場所づくりを
推進します。

こども食堂、学習支援、プレイパークなど、こどもたちが安心して過ごせる「第三の居場所」を増やします。



こどもの意見をまちづくりに
活かします。

新たに「こども・若者まちづくり委員」を設置し、次世代の声を直接、町の施策に反映させる仕組みをつくります。

将来像②すべてのこども・若者がが夢や希望を持ち成長できるまち

こどもたちの夢と、家庭の現実

小学5年生

できる 選手 仕事
選げる 守る 後に立つ プロ野球選手 車
描ける エンジニア ユーチューバー 歌手
買う 看護師 整備士 バレーボール選手
水族館 薬剤師 たかい 有名人 救う 踊る
取る 保育士 サッカー選手 働く 関わる 作れる
パーティシエ 陸上選手 トリマー ダンサー 高い
お金 うまい 美容師 夢 ネイリスト 産む
面白い 将来 一級建築士 楽しむ 仕事 心理士
集める バスケットボール ネイリスト かっこいい
イラストレーター 医者 動物園 作る 飼育 警察官
医者 動物園 作る 飼育 警察官 思う
行く お金持ち

中学2年生

いい 行く 関わる 夢
ダンス 保育士 トレーナー 成績 部活 生きる
海外 ペットホテル 美容師 バレーボール選手
過ごす 好き 建築士 助ける 残す 高い
自動車整備士 インテリアプラン... 住む 競輪選手 新しい
楽しむ 仕事 警察官 心理士 企業団 無くす
決める パティシエ 教師 プロバスケ やり遂げる
楽しい 選手 高校 獣医師 医者 働く
高校 うまい 地球温暖化対策 携わる プロサッカー選手 よい
イラストレーター 開く かかわる 就く
cgクリエイター 乗る たまる YouTuber できる

しかし、経済的な現実は厳しく、保護者の**75.3%**が「教育費に負担を感じ」、
73.0%が「食費を切り詰めた経験がある」と回答しています。

私たちの行動



「子どもの貧困」対策を総合的に推進します。

経済的な理由で子どもの将来が左右されないよう、
学習支援や生活支援、相談体制を強化します。



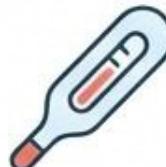
子育て世帯への経済的支援を続けます。

好評をいただいている「給食費無償化事業」や
満18歳まで「子ども医療費支給事業」を継続し、
直接的な負担を軽減します。

将来像③すべての親が子育てに喜びや楽しさを感じ、安心できるまち

保護者の声

アンケートでは「子育てを支援する生活環境の整備」は、満足度が低い一方、今後の重要度は最も高い項目のひとつでした。



約8割

こどもが病気の際、通常の保育サービスが利用できなかつた経験がある家庭

- だれが対処しましたか（複数回答あり）



主に母親
(81.1%)



か父親（53.8%）が仕事を休んで対応しています。

私たちの行動



多様な保育サービスを充実させます。

「保育所待機児童ゼロ」を維持するとともに、保護者の就労形態に関わらず利用できる「こども誰でも通園制度」の導入や、一時預かり事業を推進します。



仕事と子育ての両立を支えます。

「病児・病後児保育事業」や、いざという時に頼れる「ファミリー・サポート・センター事業」を強化し、安心して働き続けられる環境を整えます。

将来像④こども・若者の育ちを地域の力で支えるまち

みんなが望む滑川町

楽しむ 友達
欲しむ 自然
きれい 安心
ショッピングモール
安心 住みやすい 駅前
便利 公園 整備
安心 ポイ捨て 遊べる
欲しい 施設
つくる

こどもや若者からは、安心して遊べる場所や、買い物を楽しめる施設を望む声が多く寄せられました。

保護者からは、子育てにかかる費用負担の軽減や生活環境の整備を求める声があがっています。

私たちの行動



安全・安心な生活環境を整備します。

こどもたちが安全に遊べるよう「公園遊具等の維持管理」を徹底します。また、登下校時の安全を守るために「交通安全対策」を強化します。



地域全体でこどもを見守る体制をつくります。

「こども110番の家」や地域の防犯パトロールなど、住民、事業者、行政が連携し、犯罪等からこどもを守る活動を推進します。

データで見る、こどもたちのリアルな日常



普段の暮らしの
満足度

8割以上

が「良い」と回答。

小学生86.3%， 中学生81.2%

- ・「家族との生活が楽しい」「趣味ができる」と「友だちと仲が良い」が上位の理由。



悩みや心配ごとを
相談できる？

7割以上

が「相談できる人が
いる」と回答。

小学生73.5%， 中学生78.5%

- ・相談相手は「親」が最も多く、
次いで「友人」。



将来の夢や目標は
ありますか？

小学生は
74.6%
が「ある」と
回答。



一方、
中学生では
45.5%
に減少。

年齢が上がるにつれて将来への希望や
目標を見つけにくくなる傾向があり、
成長段階に応じた支援が必要です。

データで見る、子育て世代のリアルな声



主に子育てを
しているのは誰？

前回調査

父母とともに

未就学児の保護者 48.2%
小学生の保護者 50.5%

今回調査

父母とともに

未就学児の保護者 59.8%
小学生の保護者 55.2%

「父母とともに」と答えた割合が
前回調査より大幅に増加。



経済的な負担を
感じていますか？



75.3%
が「教育費」に
負担を感じる。



73.0%
が「食料品の購入を
控えたことがある」。



最も困っていることは
「食費」(58.8%)。



気軽に相談できる
相手はいる？

未就学児の保護者の9割、
小学生の保護者の8割が
「いる」と回答。

しかし、相談先は「祖父母」や
「友人」が中心。地域のつながりが
希薄化する中、公的な相談窓口や
支援施設の重要性が増しています。

計画をみんなで育て、未来へつなげるために

計画を推進する体制

滑川町子ども・子育て会議



学識経験者、専門家、保護者、公募の住民などで構成。専門的な知見と町民の幅広い意見を計画に反映させます。

連携と協働



福祉、保健、教育など府内各部門が連携するとともに、地域の団体や住民一人ひとりと行政が協力し、町全体で計画を推進します。

計画を評価し、見直す仕組み



毎年、施策の進捗状況を評価（Check）し、改善（Action）につなげます。社会情勢の変化にも対応し、必要に応じて計画を見直すことで、実効性を高めていきます。



滑川町福祉課



滑川町マスコットキャラクター
ターナちゃん